

28 「自然災害への対応は弱いところ、弱くないところを知ることである」との意味は？

自然災害は、大概として“弱いところ”から始まります。自然災害を起こす原因としては大雨や地震などがあり、これらに“攻撃”された場合、攻撃に対して“弱いところ”で被害が発生することになります。弱いところとは、斜面であれば急傾斜地や亀裂、表層の不安定土塊などがあり、川の弱いところ、地盤の弱いところ、あるいは地球の弱いところなどがあります。

弱いところの情報は、調査が必要な場合もありますが、インターネットなどで公開されている地形、地質の情報や、国・自治体で公表しているハザードマップなどから読み取ることができます。弱いところは対策により弱くないところとすることもできますが、全部がそうではありません。その場合、弱いところには近づかない、利用しないことや弱いところであることを普段から認識していることが対応策となります。

自然災害への対応は、「弱いところを弱くないところにする事」、「弱いところがあることを知り対応すること」です。重要なことですが、地域により弱いところの種類と対応策は異なります。例えば、以下のような感じかなと思います。

弱いところの状況	対応
緩い砂地盤	地震時の液状化への対応
河川に面した低地	河川氾濫（内水氾濫、外水氾濫）による浸水被害などへの対応
海辺に近いところ	地震時の津波の発生
沢の入口付近	大雨時の土石流の発生への対応
家の裏が急崖	地震や大雨時の土砂崩れや落石への対応
．．．．	．．．．

以下は、発生した災害の様子の写真です。



「弱いところ」や「弱くないところ」を知るということは、地域の地形、地質の特徴と災害発生メカニズムを知ることであり、起こり得る災害の種類とそのメカニズムを知り準備することです。

(M. K.)